

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4年次生 末澤 杏奈

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、海外の医療制度について学ぶために、平成28年2月29日から3月7日にかけて、カナダのバンクーバーを訪問しました。そこで、カナダ医療英語・医療通訳一日研修プログラムを受講しました。そのことについて報告いたします。

2. 医療通訳イントロダクションプログラム

カナダで医療通訳をされている高橋さんに、カナダの医療制度について教えていただきました。カナダでは、病院で専門医が重症患者や専門的な処置が必要な患者を診察し、クリニックでファミリードクターが軽度の病気を診察するという医療制度になっています。そのため、カナダ人はそれぞれ居住地区にファミリードクターを持っており、予約をして診察を受けます。また、ファミリードクターを持っていない人や海外からの旅行者が予約なしで診察を受けることができる、ウォークインクリニックと呼ばれる診療所があります。カナダの国民皆保険では、原則として患者の自己負担は一切ありません。また、日本で使われているようなおくすり手帳はありません。

3. メインランドクリニック

この受付の白いボタンを押すと、日本語を話せる医療通訳の方に出てきてもらえます。そして、2、3人掛けの小さな待合室に通してもらい、呼ばれたら診察室に向かうことになります。ここにいるのは、医師と医療事務、マッサージ師、整体介護の人のみで、医師は普段3人いるそうです。看護師がいいため検査ができず、医療事務の方ができるのは尿検査くらいです。また、薬剤師もいませんでした。



メインランドクリニック受付

4. コーストメディカルクリニック

ここには、7つの診察室と、事務と通訳の方がいる部屋、医師のいる部屋、カウンセリングの部屋がありました。医師は4人いて、少ない時でも2人、多いときで5人います。毎週水曜には日本人のカウンセリングの先生が来ます。



事務と通訳の方がいる部屋



カウンセリングの部屋

5. St Paul's 総合病院

病院において、薬剤部は地下にあり、日本のように薬剤師が入院患者の元へ行くことはありません。薬についての説明は全て医師と看護師が行います。また、カナダでは入院することはめったになく、患者は手術したその日に帰ったり、妊婦さんも出産したその日に帰ったりします。日本は「念のために」とすぐに入院してしまうため、これにはとても驚きました。病院の中も日本と違って、お土産屋さんや教会があります。また、教会にはちゃんと神父さんが来ます。



病院外観



病院内部

6. 検査施設

訪れた検査施設では、レントゲン検査、血液検査、超音波検査がされていました。ここには検査技師の方がいますが、医師はいません。ここで検査した結果はFaxなどで医師の元へ送られます。驚くことに、カナダでは、インフルエンザかもしれないという患者でも、インフルエンザの検査はめったにしません。サンプルをラボに送るため、結果を知るまでに2~3日ほどかかるため、また、結果が分かる頃には治っていることが多いからです。すぐにインフルエンザの検査をする日本とは大きな違いだと思いました。



検査施設入り口

7. Pharmasave

ここでは、この薬局で働いている薬剤師の Nelson さんに質問させていただきました。回答していただき、学んだ内容を報告します。薬剤師の仕事の内容は、お薬の相談を受けること、処方を出すこと、医者や看護師と連携をとること、直接保険会社にお薬の請求をすること、インフルなどの予防接種をすることなどです。カナダの薬局には薬剤師をサポートするアシスタントがいますが、そのアシスタントの仕事の内容は、患者の処方箋の情報をコンピューターに入力するといった、薬には関わらない事務的なことが主です。アシスタントと分業されていることでのメリットは多く、デメリットはありません。例えば、トイレトペーパーなどの日用品の購入はアシスタントに任せられるので仕事に専念できること、薬を曜日で分けて袋に詰める作業をアシスタントにやってもらえるために薬剤師は確認のみでよくなることがあります。薬剤師のレベルには2つあり、普通の薬剤師と医師に近い薬剤師がいます。医師に近い薬剤師は医師に相談して薬を決めたり、処方したりできます。対して、アシスタントは、レベルによっては薬の処方の確認ができ、処方を出すことも、レベルが上がるとできるようになります。それには1年余分に勉強が必要で、通常2年でアシスタントになれるので、合計して3年勉強することになります。



薬局内部



Nelson さんと同時受講者と共に

8. Shoppers Drug Mart

Shoppers Drug Mart は、日本と同じく、医薬品だけでなく、シリアルやお菓子、石鹸といった日用品も販売しているドラッグストアです。そこに薬局が入っていて、薬剤師が処方箋受付をしています。ここで用途に合った薬を選ぶという体験をさせていただきました。カナダの医薬品で、大きく日本と異なるのは、包装に英語とフランス語の両方の表記がされていたことです。



プログラムでお世話になった医療通訳の方々と同時受講者と共に

9. 最後に

短い期間でしたが、今回の研修によって、カナダの医療制度について多くのことを学ぶことができました。カナダの医療事情は日本とは違うところが様々ありました。中でも特に驚いたのは、マスクは咳が出る患者がするだけで、日本のように「予防」のためにマスクをすることはなく、海外に出て初めて、念のためにと検査や入院をすぐに行う日本は、用心深いのだとわかりました。今まで“当たり前”だったことが、実は他の国では全然違うということは、どれもとても興味深かったです。

質問させていただいた Nelson さんからは、「自分で何がしたいか？ということをはっきり明確にし、それに突き進むべき。しかし、何も決まっていないときは“すべて”をするべきだ。」とアドバイスをいただきました。Nelson さん自身が色んなところで働いてから、今の薬局で働いているそうです。私自身、まだ将来どう働きたいかハッキリとは決まっていません。しかし、これからしっかり勉強して、私にできる“すべて”を吸収していき、その中で自分がしたいことを見つけていきたいと思います。入学する以前からただ漠然と、英語を使った仕事に憧れがありましたが、今回の研修を通して、その憧れはより一層強くなりました。その一方で、現地で英語を聞いたり話したりすることによって、自身の語学力の及ばなさを強く痛感いたしました。可能性を縮めないためにも、残りの大学生活で、薬学の知識はもちろんのこと、英語や、その他多くのことをしっかり学んでいきたいと思えます。

国際交流基金の助成によってこのような貴重な経験ができました。ご助力いただいたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。